



第1回
ユニット1 外国人児
童生徒教育の現状と
課題を知る①

なぜ学校の先生にな
るとき「外国につながる
子どもたち」のことを学
ぶのか？



南浦
涼介

授業ではMicrosoft Teamsを使います。
まだ参加していない人は Microsoft TeamsアプリをPCかタブレットで開いて

のチームコードを入力してください

南浦 涼介のプロフィール

大学時代
小学校の教師を目指していた

タイで
日本語教師

兵庫県の
中学校で教師
社会科

ガソリンスタ
ンドで
フリーター

附属小学校で
教師
社会科、図工、理科

大学院
日本語教育
社会科教育

滋賀県で
外国人児童生徒
の日本語教師

タイで
日本語教師

農業高校で
教師
地理

山口大学で
教師
小学校全般
社会科教育

東京学芸大学で
教師
日本語教育
国語教育

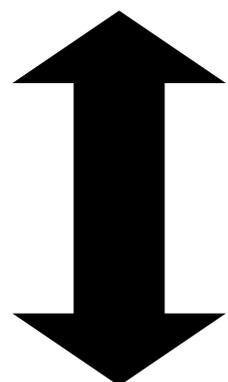
広島大学で
教師
外国人児童生徒教育
教育課程論 教育制度など

南浦 涼介が大事にしていること

Promoting Linguistic / Cultural Diversity and Whole-School Development

多様なことばと文化を持っているさまざまな人が、それを失うことなく成長できること
それを、学校と地域が「全体で、あらゆる場所で」育てられるようになる
そんな学校教育の実現をすること

キーワード 市民性教育、複言語教育、日本語教育、変革、学校改革



「たかが学校、されど学校」

今の学校には課題も多いが、学校の役割は大きい

言語的文化的、経済的学力的に多様な人を包摂し

学校を変えていくことをめざしながら、学校を大事にできる人を育てる

おもしろくてかしこくなれ、人と社会とつながりながら

成長できる授業の研究

知的で、ホンモノな学びとなっていること

それが現在と将来の社会参加につながるものであること

これをどのような人もできるための「深い授業」を教師が実現させていくこと

キーワード 授業研究、カリキュラム論、教育評価論

はじめに

この授業を受けるとどのような視点が身につくか？

教育学部の学生のみなさんにとって

授業を通していく中で次第に見えてきますが

「外国人児童・生徒の教育」は語学教育のような授業ではありません。

「外国につながる子ども」の存在を通して教育を考えるに欠かせない

「子ども理解」「授業づくりの発想」

「学校づくり」「地域づくり」

教育のすべてが入っています。

あらゆる教育のありようを考え直し

あるべき姿を考えることにつながります。

はじめに

この授業を受けるとどのような視点が身につくか？

教科教育に関心がある人にとって

特に後半では「授業づくり」に焦点が当たっていきます。

外国人児童生徒の教育は、すべての教科教育のエッセンスが入り込み、そしてすべての教科教育の発想に新しい視点を投げかけます。

単なる「わかる」「できる」を越えて、多くの子どもたちが参加可能な教育とはどのようなものかを考えるきっかけにつながっていきます。

はじめに

この授業を受けるとどのような視点が身につくか？

日本語教育や国際理解，特別支援教育に関心がある人に

この授業の最終目的地点は，「外国人児童生徒」という視点を以て，多様な人々が共に学び，生きる教室・学校・社会をつくっていくために教師は何ができるか，ということを見つけていくところにあります。

そのためには，単に「今のその場所」にうまく適応する教育だけではなく，「今のその場所」をどう変えていくかという，変革的な教育の発想をつくっていきます。

インクルーシブ教育を障害を持つ子どもたちから拡張し，グローバルな視点でインクルーシブを考える視点につながっていきます。

はじめに

授業のシステム

①評価について

締め切りは0:00ですが
すぐやる方が確実です

Microsoft forms
で行います

その日の授業に関わる問いに答える形で問いに選択肢で答えたり、記述（200字程度）したりする形でまとめます。次回からは出席確認システムの出席と合わせて出席です。

記述は事後にTeamsからお互いに考えを見られるようになっています

開始30分以内までは遅刻として認めます。遅刻2回で欠席1回です。

学期末テストは、授業内で扱った内容をもとにした4択解答式のテストを行います。

②Teamsを使います。

スライド資料などはこちらに

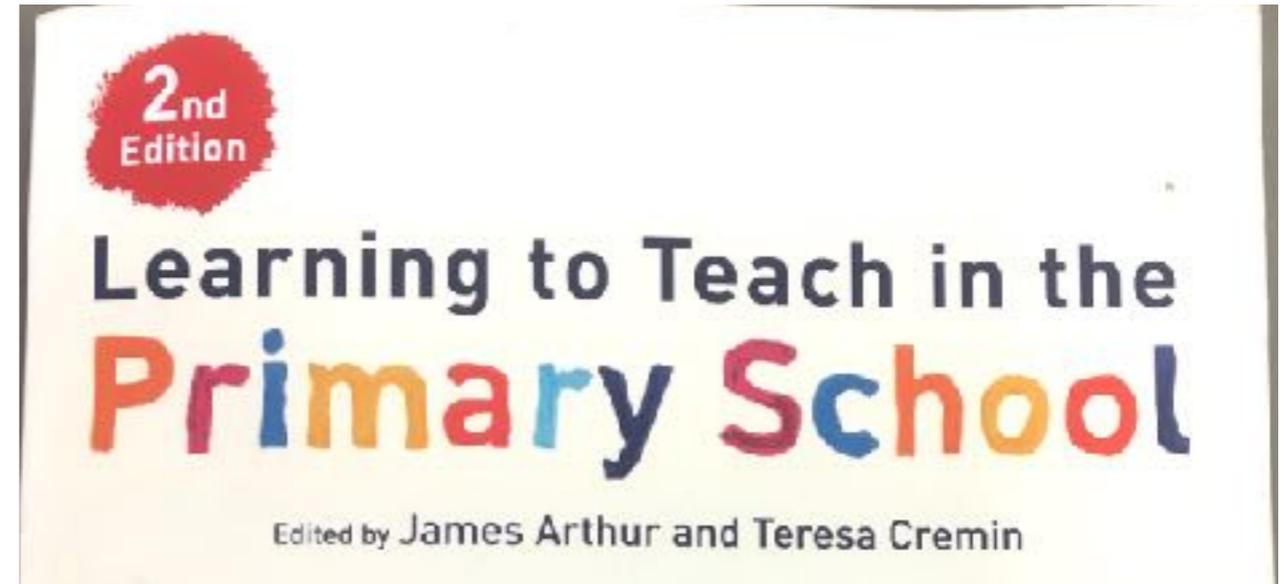
ハウリング防止のため
音声はつながないように
してください

コメントが目には煩い、字が見えにくいことへの対応で、画面共有のみTeams会議室システムでPCにつながります。

イメージを
可視化する

もし、あなたがイラストレーターで、下の本の表紙デザインを頼まれたら
どんな絵のイメージにしますか？

大学生のための
教師と子どもでつくる
学校入門
著者





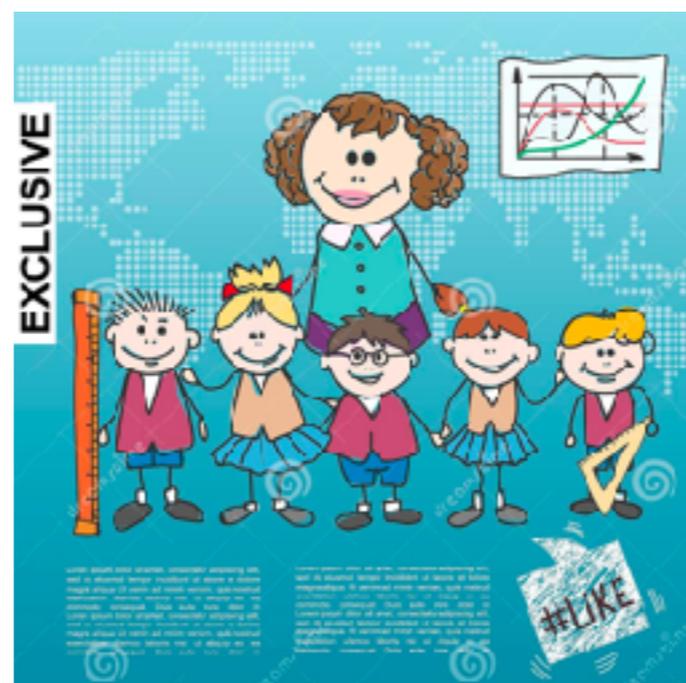
www.shutterstock.com + 564827057



Download from Shutterstock.com



Download from Shutterstock.com



EDUCATION

PREMIUM



dreamstime.com

ID 135205913 © Buresck



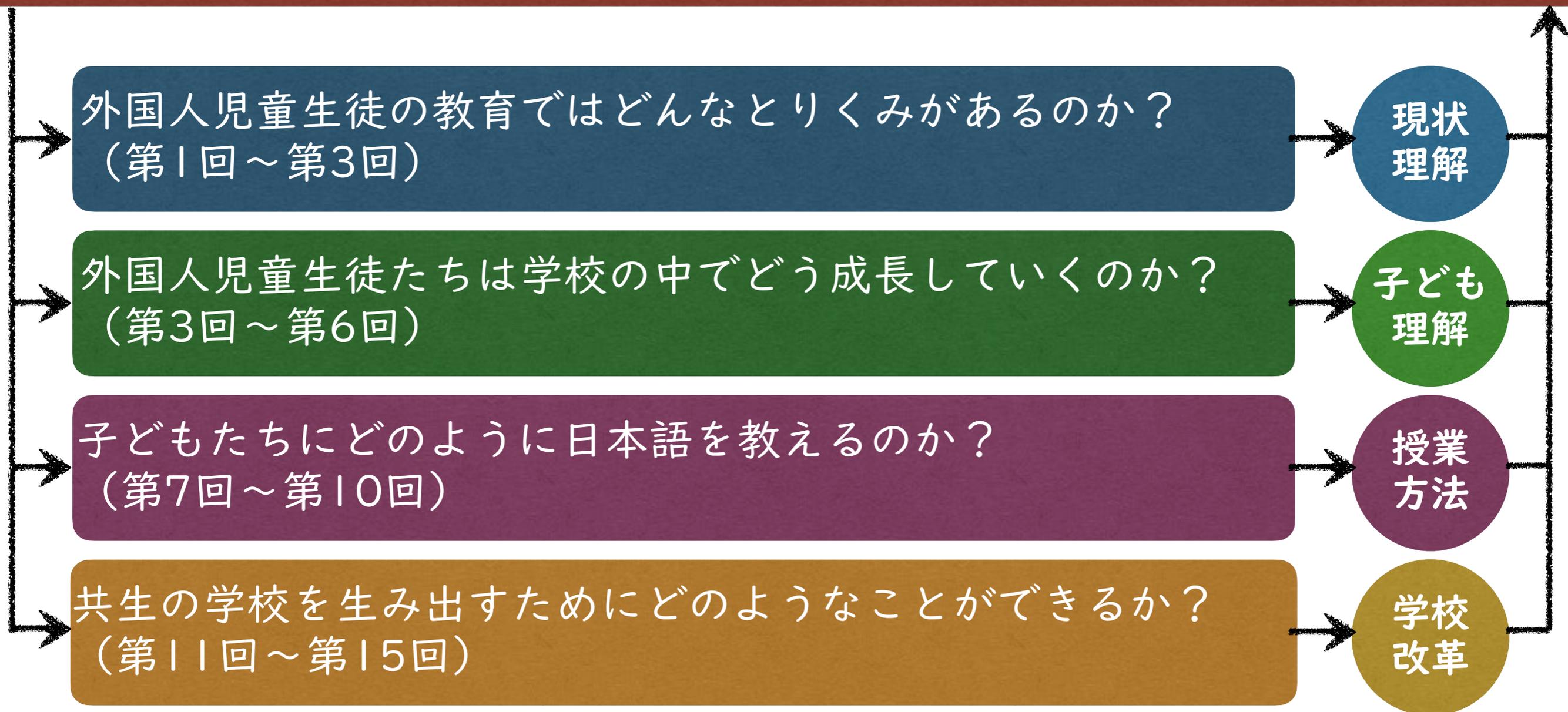
www.shutterstock.com + 462347022



日本の「学校像」「子ども像」は「日本語を話す日本人」が前提となっていることが多い

「外国人児童生徒への日本語教育」で学ぶこと

これまで「日本語を話す日本人の子ども」という前提をみなおし外国人児童生徒の存在を「前提に入れて」日本の教育を考えると日本の学校教育は、どのように変わるのか？
教師は、どのような視点を身につけておく必要があるのか？

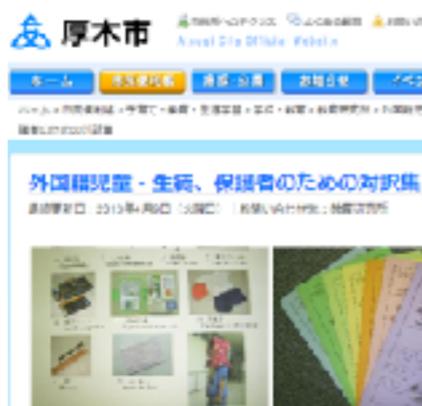


「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

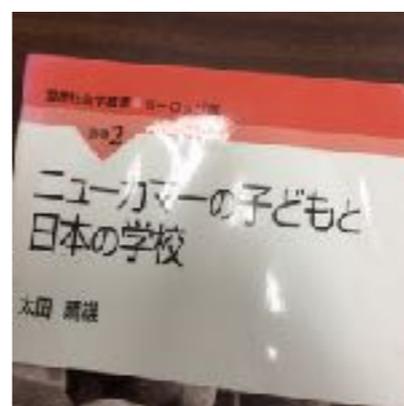
ここにあげているのは、数々の「外国人児童生徒等教育」の関連本です。
ところが、その対象となっている子どもたちの「呼称」はなぜかまちまちです。



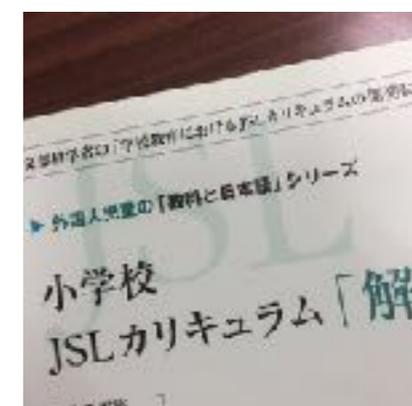
外国人児童生徒



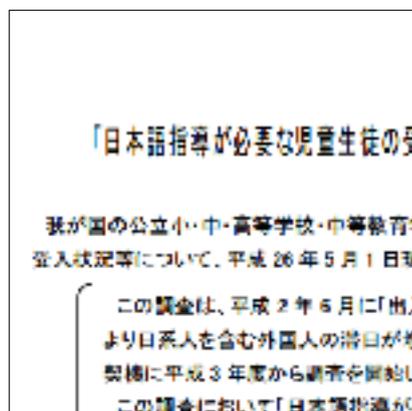
外国籍児童生徒



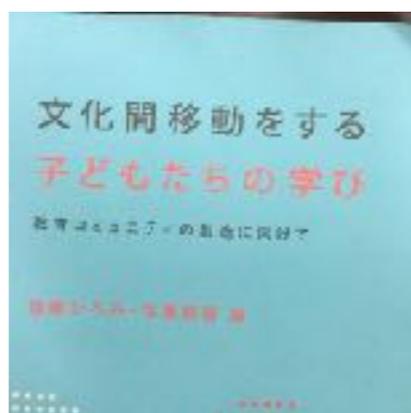
ニューカマーの子ども



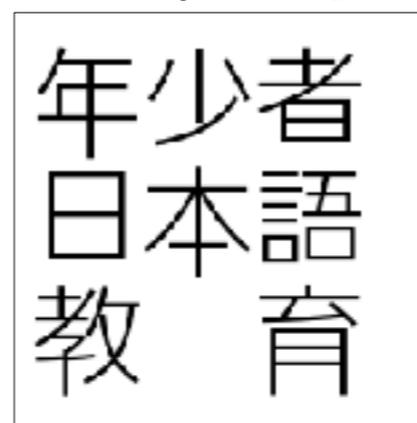
JSL児童生徒



日本語指導が必要な児童生徒



文化間移動をする子どもたち



年少者

Japanese as a Second Language (第二言語としての日本語) の略です

もともと日本語教育は「留学生」のような成人が対象だったことからその対比で「年少者」と呼ばれたり。

「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

A リアン君

小学校3年生。2か月前にインドネシアから来日しました。父母はともにインドネシア人です。

日本語はたどたどしいけれど、クラスの友だちと少しずつ話すようになってきています。でも、クラスの中での学習はまだまだ難しいものがたくさんあります。そのため、国語の時間を中心に、日本語教室に通っています。

それから、自分ではあまり自覚はないのですが、両親もイスラム教徒です。給食ではいつも、食べてはいけないものがあるかどうか、ちょっと注意をしないといけないのが困っています。イスラム教があまりまだ日本では浸透していないことや、最近の国際的なニュースでのイスラムの報道などもあいまって、両親は日本で暮らしていくことに不安も感じています。

B 太田京花さん

小学校5年生。中国人の母と、日本人の父が結婚し、日本で生まれました。日本国籍を持っています。

家ではお母さんとは中国語を話し、お父さんとは日本語と中国語半々で話をします。お父さんは仕事で家にいないときが多いので、中国語の時の方が多いかなと思います。

学校では、友だちとの会話はみんなと同じようにできます。ただ、どうも国語や社会の学習は難しく、ついていけないことがあります。特に、4年生のころから、そんなことが目立つようになってきました。

母が中国人だからと言って直接何か言われるわけではないのですが、クラスの授業で、中国のことが話題になった時に、中国の悪口が何気なく飛び交うと、なんとなく嫌な気分にもなります。周りは自分の名前も太田だから、特に気づかないのかもしれませんが。

C 田中・シモーネ・美由紀さん

中学3年生。小学校2年生の時にブラジルから日本に来ました。両親は、日系ブラジル人（かつて日本からブラジルに移民した人を先祖に持つ）なので、ブラジル人とも言えるけれど、日本の血も引いています。22歳までに、ブラジル国籍か日本国籍かは決めなければなりません。

もう来日して7年がたちます。来たころは日本語もわからなかったし、勉強にもとても苦労しました。でも今は周りにもついていけます。高校受験も迫ってきて、志望校に入れるように頑張っていきたいと思っています。ただ、いつも思うのは、将来私は日本かブラジルか、どこで生きていこうかということ。国籍を選択していくことも含め、友だちとは共有しにくい悩みです。

タスク2

「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

A リアン君

小学校3年生。2か月前にインドネシアから来日しました。父母はともにインドネシア人です。

日本語はたどたどしいけれど、クラスの友だちと少しずつ話すようになってきています。でも、クラスの中での学習はまだまだ難しいものがたくさんあります。そのため、国語の時間を中心に、日本語教室に通っています。

それから、自分ではあまり自覚はないのですが、両親もイスラム教徒です。給食ではいつも、食べてはいけないものがあるかどうか、ちょっと注意をしないといけないのが困っています。イスラム教があまりまだ日本では浸透していないことや、最近の国際的なニュースでのイスラムの報道などもあいまって、両親は日本で暮らしていくことに不安も感じています。



①外国人児童生徒



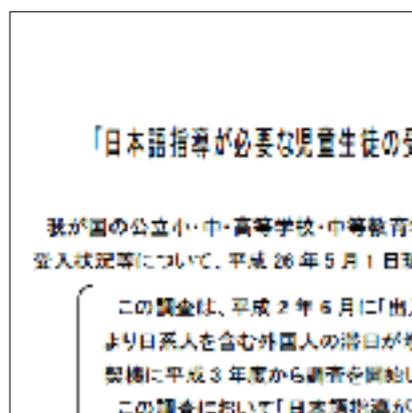
②外国籍児童生徒



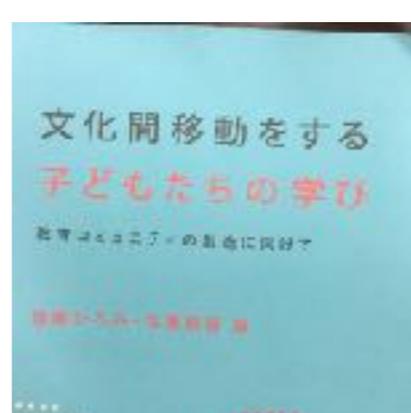
③ニューカマー
の子ども



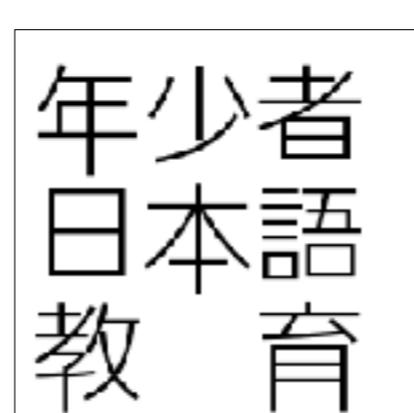
④JSL児童生徒



⑤日本語指導が必要な
児童生徒



⑥文化間移動をする
子どもたち



⑦年少者

「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

B 太田京花さん

小学校5年生。中国人の母と、日本人の父が結婚し、日本で生まれました。日本国籍を持っています。家ではお母さんとは中国語を話し、お父さんとは日本語と中国語半々で話をします。お父さんは仕事で家にいないときが多いので、中国語の時の方が多いかなと思います。

学校では、友だちとの会話はみんなと同じようにできます。ただ、どうも国語や社会の学習は難しく、ついていけないことがあります。特に、4年生のころから、そんなことが目立つようになってきました。

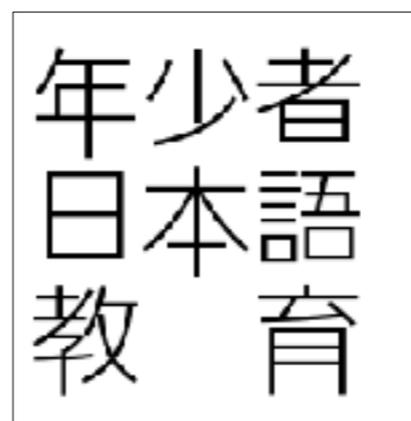
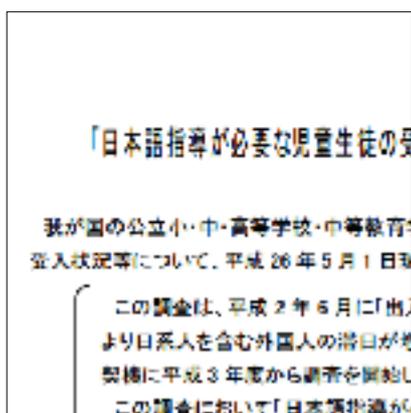
母が中国人だからと言って直接何か言われるわけではないのですが、クラスの授業で、中国のことが話題になった時に、中国の悪口が何気なく飛び交うと、なんとなく嫌な気分にもなります。周りは自分の名前も太田だから、特に気づかないのかもしれませんが。

①外国人児童生徒

②外国籍児童生徒

③ニューカマー
の子ども

④JSL児童生徒



⑤日本語指導が必要な
児童生徒

⑥文化間移動をする
子どもたち

⑦年少者

「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

C 田中・シモーネ・美由紀さん

中学3年生。小学校2年生の時にブラジルから日本に来ました。両親は、日系ブラジル人（かつて日本からブラジルに移民した人を先祖に持つ）なので、ブラジル人とも言えるけれど、日本の血も引いています。22歳までに、ブラジル国籍か日本国籍かは決めなければなりません。

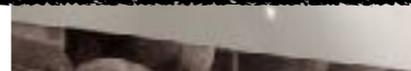
もう来日して7年がたちます。来たころは日本語もわからなかったし、勉強にもとても苦勞しました。でも今は周りにもついていけます。高校受験も迫ってきて、志望校に入れるように頑張っていきたいと思っています。ただ、いつも思うのは、将来私は日本かブラジルか、どこで生きていこうかということ。国籍を選択していくことも含め、友だちとは共有しにくい悩みです。



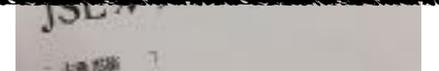
①外国人児童生徒



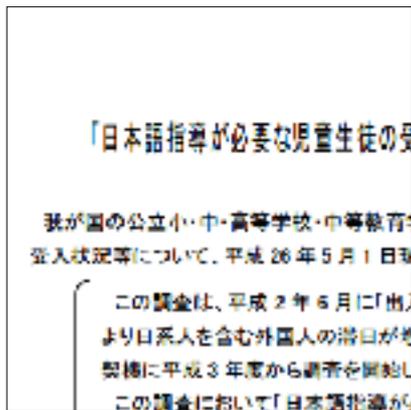
②外国籍児童生徒



③ニューカマーの子ども



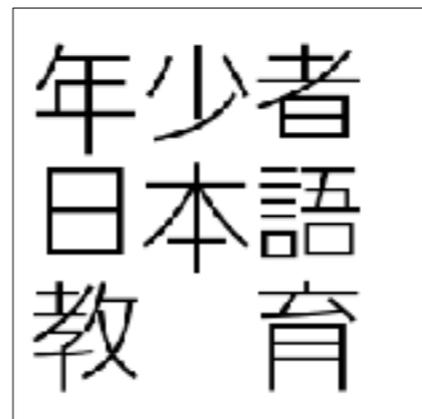
④JSL児童生徒



⑤日本語指導が必要な児童生徒



⑥文化間移動をする子どもたち



⑦年少者

「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

「文化」への着目

文化間移動をする児童生徒

「ことば」への着目

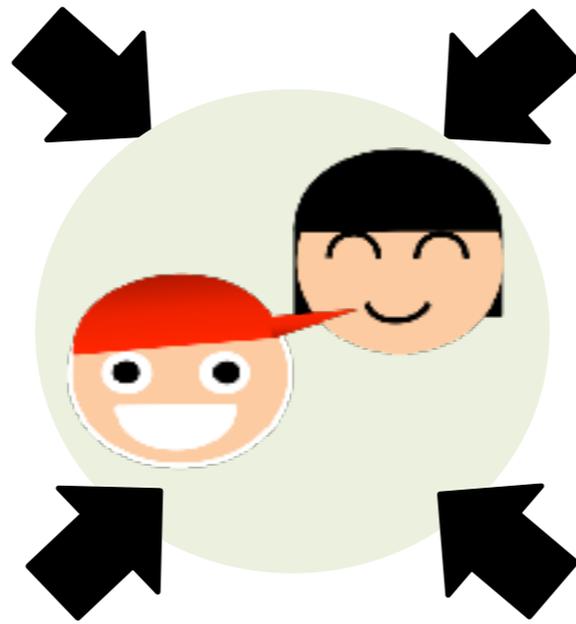
日本語指導が必要な児童生徒
JSL児童生徒
年少者

「移民の歴史」への着目

ニューカマーの子どもたち

「日本人ではない」ことへの着目

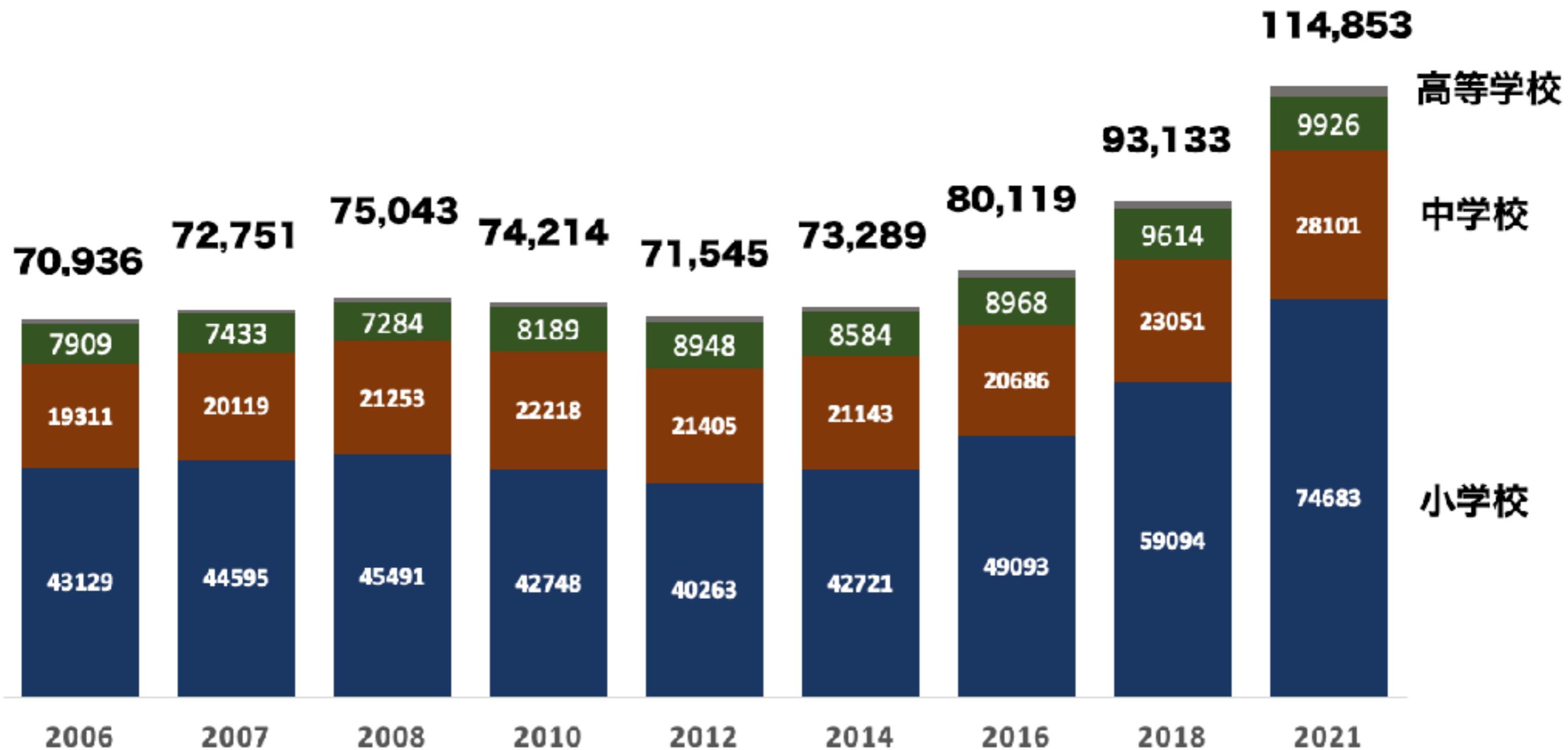
外国人児童生徒
外国籍児童生徒



「統一的な呼び方」はできないのだろうか？

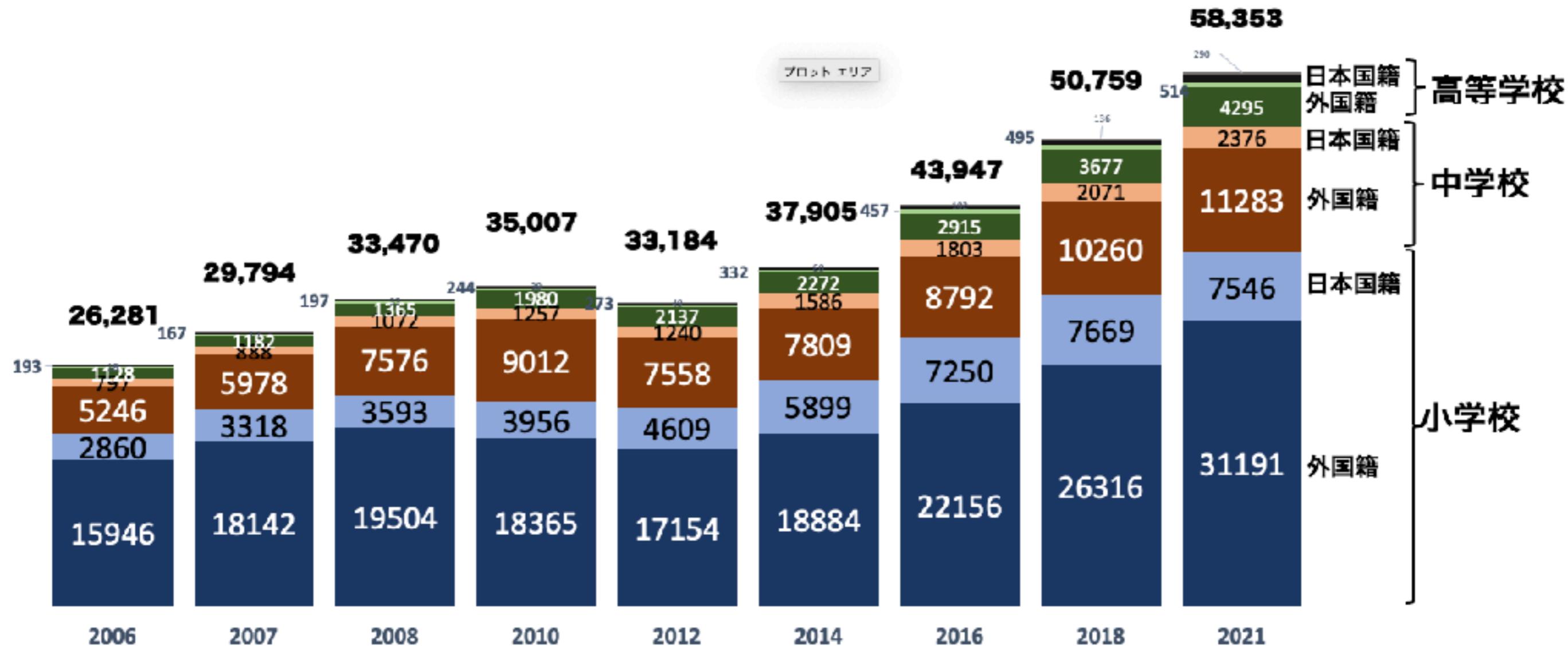
「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

外国籍の児童生徒数全体



「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

日本語指導が必要な児童生徒の数

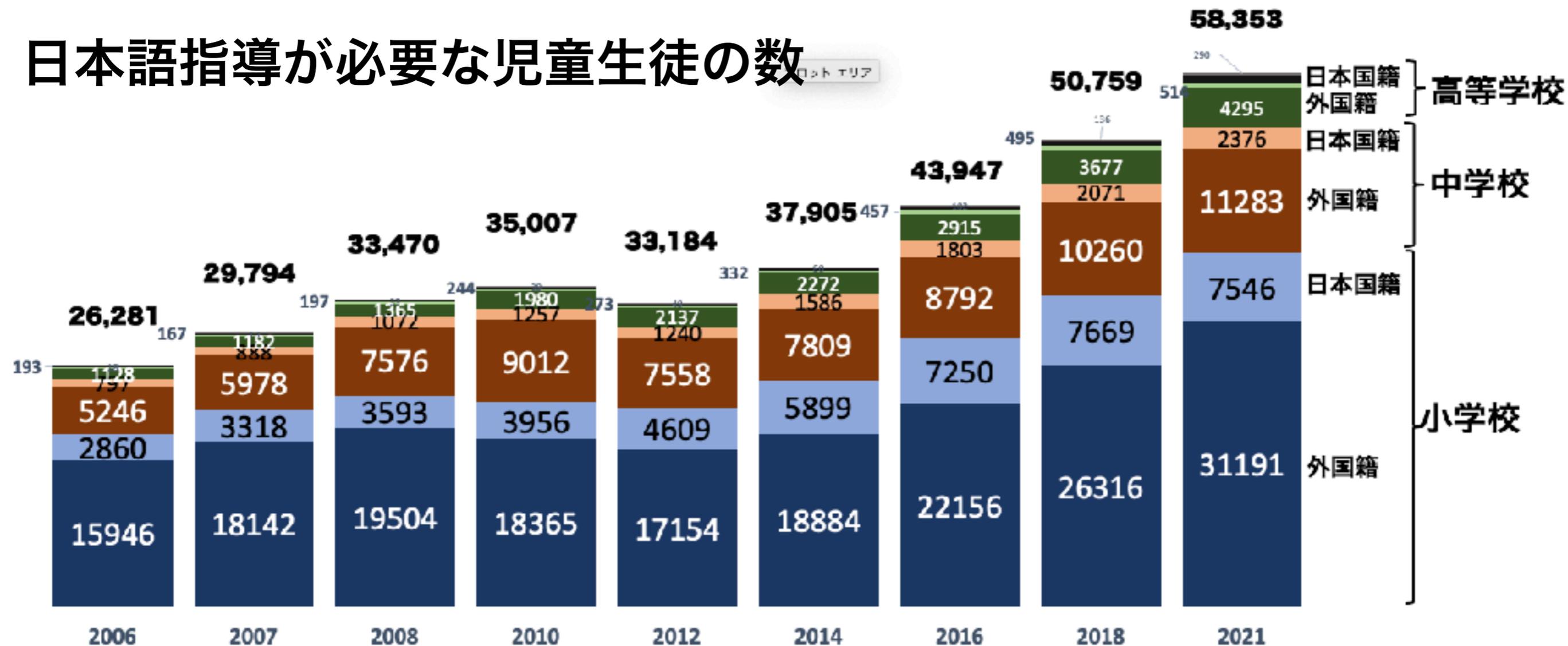


どうして高校になると減ってしまうのか？

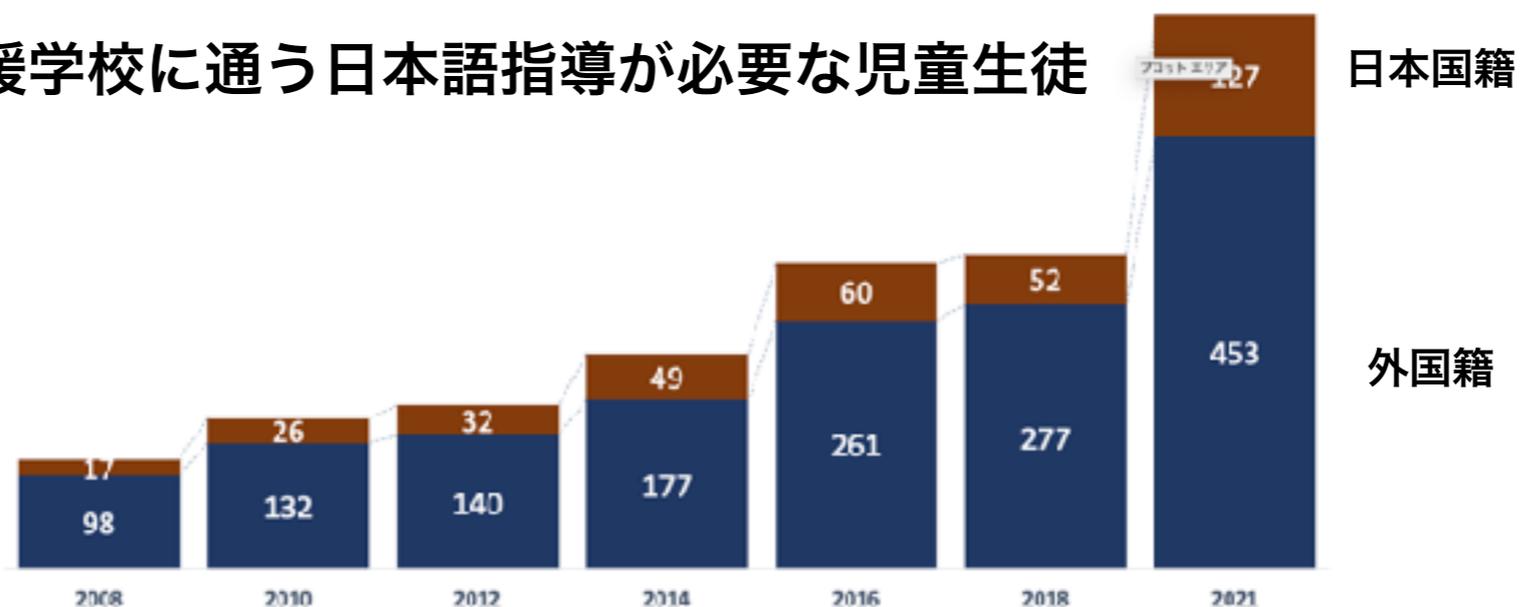
「外国人児童生徒」と呼んでいいのだろうか？ そもそも！

「この子どもたち」をなんと呼ぶべきか？

日本語指導が必要な児童生徒の数



特別支援学校に通う日本語指導が必要な児童生徒

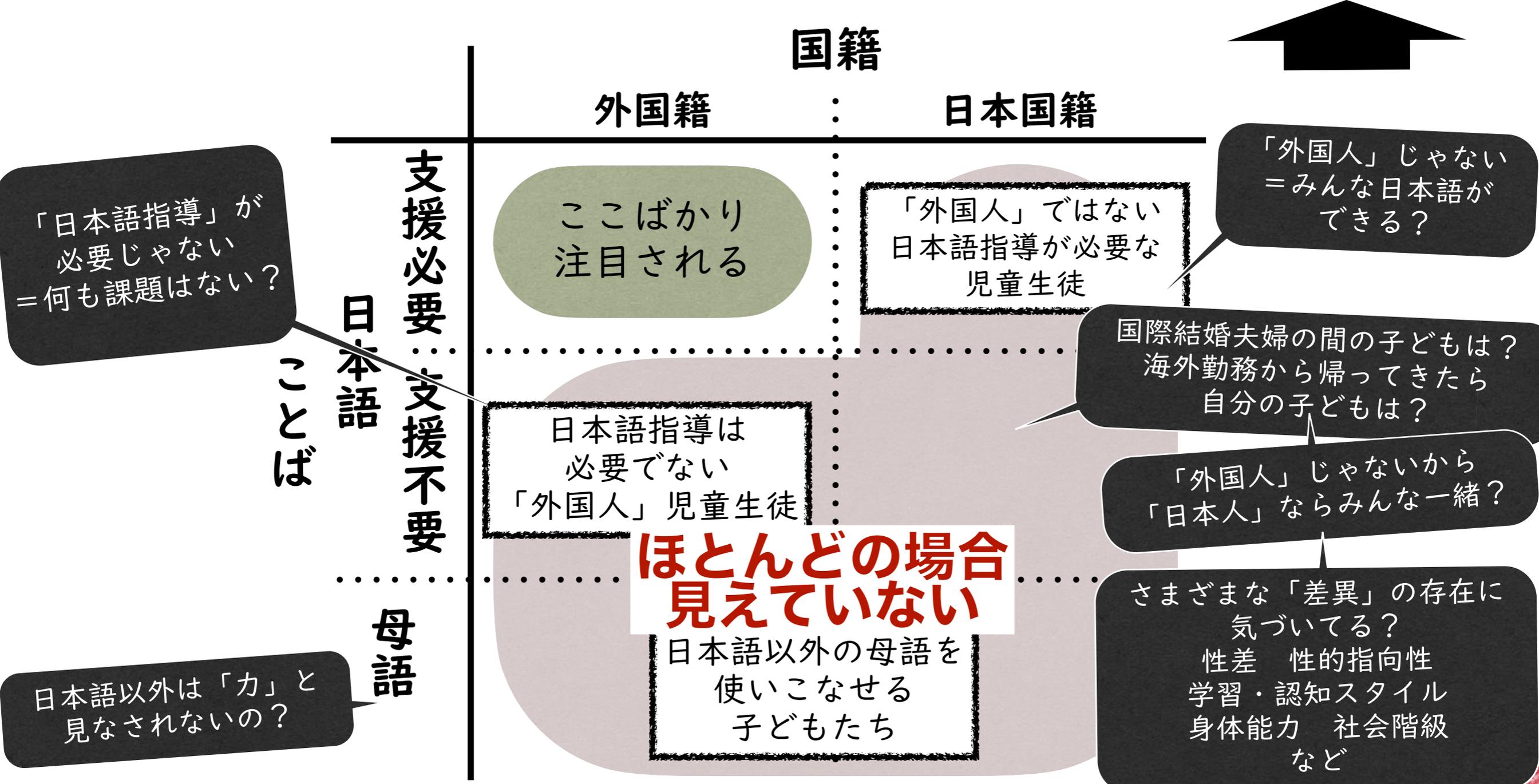


タスク3

「外国人児童生徒」と見ることで見えなくなることは何か？

日本に学齢期の子どもたち	1200万人
外国人児童生徒	10万人
日本語指導が必要な子ども	5万人

単に「一部の子ども」の問題ではなく
「すべての子ども」に通じる問題になっていく



この授業を受けるとどのような視点が身につくか？

教育学部の学生のみなさんにとって

授業を通していく中で次第に見えてきますが、「外国人児童生徒への日本語教育」は単なる語学教育のような授業ではありません。

「外国につながる子ども」の存在を通して、教育を考えるに欠かせない「子ども理解」「授業づくりの発想」「学校づくり」「地域づくり」、教育のすべてが入っています。あらゆる教育のありようを考え直し、あるべき姿を考えることにつながります。

教科教育に関心がある人にとって

特に後半では「授業づくり」に焦点が当たっていきます。

外国人児童生徒への日本語教育は、すべての教科教育のエッセンスが入り込み、そしてすべての教科教育の発想に新しい視点を投げかけます。

単なる「わかる」「できる」を越えて、多くの子どもたちが参加可能な教育とはどのようなものかを考えるきっかけにつながっていきます。

日本語教育や国際理解、特別支援教育に関心がある人にとって

この授業の最終目的地点は、「外国人児童生徒」という視点を以て、多様な人々が共に学び、生きる教室・学校・社会をつくっていくために教師は何ができるか、ということを見つけていくところにあります。

そのためには、単に「今のその場所」にうまく適応する教育だけではなく、「今のその場所」をどう変えていくかという、変革的な教育の発想をつくっていきます。

インクルーシブ教育を障害を持つ子どもたちから拡張し、グローバルな視点でインクルーシブを考える視点につながっていきます。

「外国人児童生徒への日本語教育」で学ぶこと

これまで「日本語を話す日本人の子ども」という前提をみなおし外国人児童生徒の存在を「前提に入れて」日本の教育を考えると日本の学校教育は、どのように変わるのか？
教師は、どのような視点を身につけておく必要があるのか？

